福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

年　　月　　日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　273-0048

所在地　千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名　NPO法人　ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号　　機構　06　―　163

電話番号　047-404-6300

代表者氏名　吉谷　健二　　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

		評価者氏名	担当分野	修了者番号
評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1801012
	③		福祉	H1701070
	④			
	⑤			
	⑥			

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	Gakkenほいくえん瑞江		
事業所連絡先	〒	132-0011	
	所在地	東京都江戸川区瑞江1丁目28－9	
	TEL	03-6231-8621	
事業所代表者氏名	園長　月野　久美子		
契約日	2022 年　6 月　1 日		
利用者調査票配付日（実施日）	2022 年　9 月　1 日		
利用者調査結果報告日	2022 年　10 月　18 日		
自己評価の調査票配付日	2022 年　7 月　7 日		
自己評価結果報告日	2022 年　10 月　18 日		
訪問調査日	2022 年　10 月　25 日		
評価合議日	2022 年　10 月　26 日		
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	事業者の理念・目標がどのように実践されているのか、組織運営の専門家と福祉現場を熟知した専門家が実践のプロセスを丁寧に確認し、公平・公正に評価した。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年　　月　　日

事業者代表者氏名 代表取締役　山崎　知恵　　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　令和4年度

《事業所名: Gakkenほいくえん瑞江》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	【企業理念】 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します 【保育方針】 子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 子ども一人ひとりの認知・発達に応じた、個別の発達支援 地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 【保育目標】 基本的生活習慣が確立した子 心も体も自立した子 自律した行動がとれる子 他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 【保育に対する考え方】 Gakkenほいくえんは、すべての子どもが生まれながらに持っている 「育ちのチカラ」を輝かせる保育を行っています。
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	①コミュニケーション能力の高い人材 ココファングループが提供するサービスは、個人が単独で提供するものでなく、チームで協力しながら提供していくものです。したがって、相手の考えに耳を傾け理解する姿勢と、自分の考えを相手により良く伝える工夫が必要です。 ②成功・達成させる信念をもっている人材 ココファングループでは、企業理念・ビジョンの実現に向けて、仕事の成功・達成を求めていきます。 社員それぞれが成功・達成するためにはどうしたらよいのか、自分はどう行動すべきか、成功・達成するための信念をもち、将来を予測しながら、柔軟な発想で仕事を進める人材を求めます。 ③責任感がある人材 ココファングループでは、すべての社員、個々の職務・ステージに応じて「期待する役割」を設定しています。個々の役割を果たしていくことで個人のスキルアップ・キャリアアップが図られ、ひいてはグループ理念・ビジョンの達成につながるという考えに基づいた人事評価制度を取り入れています。自らの役割を理解し、強い「責任感」で仕事を完結できる人材には、経験・キャリアを問わず、様々なステージが用意されています。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	①子どもを好きでいてほしい：子どもの気持ちをどんな時でも受け止められるような保育者であってほしい。 ②プロとしての使命感：プロとして、技術・知識が足りなければ、自ら勉強をして、自分の腕を磨き保育のプロになってほしい。 ③経験を積み上げる：子どもと過ごしていく日々が積み重なることで、経験という大きな財産を積み上げていってほしい。 ④仲間を大切にする：チームワークが一番大切な仕事である。自ら相手を思いやり、大切にする姿勢をもってほしい。 ⑤ココファンマインド（約束）を守る：嘘をつかない・逃げない・ごまかさない　の3つを守ってほしい。 ⑥信じてくれている人を裏切らない：私たちのことを信頼してくれている保護者や子ども達を裏切らない気持ちを持ってほしい。 ⑦自身の役割を果たす：それぞれに与えられている役割に責任を持ち、役割を果たしてほしい。

《事業所名： Gakkenほいくえん瑞江》

調査対象	全園児の保護者を調査対象とした。（兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人として回答をお願いした）
調査方法	保育所より保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。

利用者総数	67
利用者家族総数（世帯）	54
共通評価項目による調査対象者数	54
共通評価項目による調査の有効回答者数	38
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	70.4

利用者調査全体のコメント

総合満足の回答は「大変満足」43%「満足」46%で満足以上の回答計が89%と高い評価であった。
90%以上の肯定的な「はい」回答項目は「園での活動が心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「食事は配慮されているか」等3項目18%であった。
80%台の項目は「行事日程は配慮があるか」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」等2項目12%であった。
70%台の項目は「戸外遊びは十分確保されているか」「時間変更は柔軟に対応してくれるか」「職員と相談することが出来る信頼関係があるか」「職員の言葉づかいは丁寧か」「園内は清潔か」「怪我など職員の対応は信頼できるか」「プライバシーは守ってくれるか」「保育内容の説明は分かり易いか」「子ども同士のいさかいの対応は適切か」「不満・要望はきちんと対応してくれるか」等10項目59%であった。60%台の項目は「安全対策は十分か」であった。50%以下の項目は「第三者委員に相談出来る事を説明してくれたか」であった。70%以上「はい」回答項目が全項目の88%にあたり高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	37	1	0	0
「はい」回答が97%、「どちらともいえない」回答が3%で大変高い評価であった。代表的な発言は「園生活のお陰で、子どもの出来ることが増えていたりするので大変ありがたい」「遊びも子どもの発達に合わせて考えてくれている」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	3	0	0
「はい」回答が92%、「どちらともいえない」回答が8%で大変高い評価であった。代表的な発言は「子どもが先生方を信頼し、楽しく通えているので、大変ありがたい」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	2	0	1
「はい」回答が92%、「どちらともいえない」回答が5%で大変高い評価であった。代表的な発言は「保育園ではほぼ毎日完食しているので、大変ありがたい」等であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	29	8	1	0
「はい」回答が76%、「どちらともいえない」回答が21%、「いいえ」回答が3%であった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	4	1	4
「はい」回答が76%、「どちらともいえない」回答が11%、「いいえ」回答が3%で高い評価であった。代表的な発言は「安心して仕事に行くことができる」等であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	13	0	1
「はい」回答が63%、「どちらともいえない」回答が34%であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	32	4	2	0
「はい」回答が84%、「どちらともいえない」回答が11%、「いいえ」回答が5%であった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	30	5	3	0
「はい」回答が79%、「どちらともいえない」回答が13%、「いいえ」回答が8%であった。代表的な発言は「ほぼ毎日、降園時に担任がその日の出来事やエピソードを話してくれるので充実した園生活が送れていることが分かる」等であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	7	2	0
「はい」回答が76%、「どちらともいえない」回答が18%、「いいえ」回答が5%であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	5	3	0
「はい」回答が79%、「どちらともいえない」回答が13%、「いいえ」回答が8%であった。代表的な発言は「先生方の気持ち良い挨拶が送迎するのが楽しみになる」等であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	7	1	0
「はい」回答が79%、「どちらともいえない」回答が18%、「いいえ」回答が3%であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	6	1	9
経験がないとして非該当と回答された方を除くと、「はい」回答が76%、「どちらともいえない」回答が21%、「いいえ」回答が3%であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	4	2	0
「はい」回答が84%、「どちらともいえない」回答が11%、「いいえ」回答が5%で高い評価であった。代表的な発言は「先生方には大変よくして頂いている」であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	4	2	2
「はい」回答が79%、「どちらともいえない」回答が11%、「いいえ」回答が5%で高い評価であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	27	8	3	0
「はい」回答が71%、「どちらともいえない」回答が21%、「いいえ」回答が8%であった。代表的な発言は「登園、降園時に、保育士さんより日々の様子を聞けて安心する」等であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	5	1	3
「はい」回答が76%、「どちらともいえない」回答が13%、「いいえ」回答が3%で高い評価であった。代表的な発言は「育児の悩みなど適確なアドバイスをもらえて感謝している」等であった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	11	9	6	12
「はい」回答が29%、「どちらともいえない」回答が24%、「いいえ」回答が16%であった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
◉あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◉あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

カテゴリー1の講評

「あそびが学びに、学びがあそびに」子どもの主体性を大切にした保育に取り組んでいる

保育理念・方針・目標・取り組みを「Gakkenほいくえん瑞江　生活の手引き」に明示し、「あそびが学びに、学びがあそびに」子どもの主体性を大切にした保育に取り組んでいる。職員とは会議等で話し合い、また、普段の会話の中にも、語り合い、遊びと学びの保育内容の充実に努め、主体性を育む保育実践を踏まえてより深く理解出来るように努めている。保護者には日々アプリと口頭で子どもの様子と成長を伝え、毎月の園だよりに保育理念を記載し園見学や入園児面談の際にも保育理念について説明を行っている。

目標を明確にして率先して範を示し分かりやすく助言している

園長・主任の役割と責任は職務分担表や運営ガイドラインに明記している。今年度園長は、子ども主体の保育の充実、保護者と子どもの成長を共有し信頼関係を深める、職員とは子ども主体の保育を話し合い方向性を統一して創意工夫を引き出す、地域には子育てイベントを開催し子育て相談などで貢献する、安全性向上委員会を設け子どもの安全確保を徹底する等の目標を掲げ、会議等で話し合い、積極的に保育に入り範を示しながら助言し園をリードしている。

園内の案件は各会議で本音で意見が言える信頼関係の基で検討している

最重要な案件は、園と本社の間で稟議書・決裁書により起案・決裁し全職員に周知している。園内の案件は、クラス会議・乳児会議・幼児会議・行事会議・職員会議などで協議・決定している。園内の会議では、職員が本音で意見を言えるよう普段からの信頼関係を築き肯定的な環境で会議を行える様に努めている。保護者には重要案件の変更事項については、同意書を得ている。手紙の配布や園内掲示、メールの配信などでお知らせし、保護者からの問い合わせには丁寧に口頭で説明を行う。運営委員会は年2回開催し、決定事項等お伝えする。

	カテゴリー2
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◉あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

厳しい時代の中で「選ばれる園」「地域に必要とされる園」を目指している

区の研修・会議や都の主催の研修・連絡会、本社会議などで情報を収集している。少子化に伴って事業所が淘汰されていく厳しい時代の中で「選ばれる園」「地域に必要とされる園」を中長期目標としている。保護者ニーズは運営委員会で保護者からの意見を収集し、また、日々のコミュニケーションでニーズを把握している。職員ニーズは日頃のコミュニケーションや会議等で悩み、意向、希望など把握している。地域ニーズは区の会議や子育て施設連絡会などで情報収集に努め、子育てイベント開催や育児相談などで地域貢献している。

中期計画を策定し事業計画を設定し5つの重点目標を掲げている

保育理念・方針・目標に基づいて中期計画を策定し事業計画を設定している。今年度の目標は①保育所保育指針に基づき、職員一丸となって子どもの主体性・自主性を育む保育を実践する②内部・外部での研修を活かし職員の育成と定着を図る③保育の見える化を可能な限り実行し保護者との信頼関係を築く④子どもたちや保護者への必要な支援・配慮点を見つけ出し迅速に対応できるようにする⑤コロナ環境でもより安心・安全な保育計画を立てる等の重点目標を設定している。

各計画に中長期目標と連動性を高め、さらに全職員総意の計画とするとなお良いでしょう

計画の実行はクラス会議、乳児・幼児会議、職員会議等で日・週・月・年で指導計画を振り返り、評価、次計画への反映等行っている。また、職員個人の育成計画は自己評価、期待役割面接シートにより年2回面談し進めている。さらに、指導計画や職員育成計画、見える化等計画と中期目標「選ばれる園」「地域に必要とされる園」と連動性を高め、課題を明確にして計画を具体化するとなお良いでしょう。また、全職員と目標を共有し、計画作成に当たって職員も参画して作成し、全職員総意の計画とするとなお良いでしょう。

	カテゴリー3
3	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2（3-2）

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◉あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	倫理綱領、子どもの人権等運営ガイドラインに規定し研修等で周知・徹底している 運営ガイドラインには保育理念・方針・目標、倫理綱領、服務規程（基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得）、子どもの人権（保育所保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など）、虐待防止、個人情報保護方針等が規定してある。運営ガイドラインを新人研修、フォローアップ研修で全職員に周知し、また、職員会議にて読み合わせ理解を深めている。法・倫理の遵守はコンプライアンスコードが配布され、eラーニングを受講して徹底している。 苦情解決制度を整備し、日常、要望をよく聞きサービス改善に努めている 園見学や入園面談の際に苦情解決制度を説明し、分かり易いフローチャートで玄関に掲示しご意見箱を設置している。個人面談や連絡帳、意見箱、年1回の利用者調査、行事後のアンケート、年2回の運営委委員会等で苦情・要望・意見を収集し、本部とも連絡して迅速に対応している。虐待に関する防止対策として人権擁護のためのセルフチェックを職員会議で実施し、園内研修も行い意識付け図っている。日常で気になった言動や行動には、その日のうちに職員へ伝えている。園児の虐待が確認された時には本部、自治体（児童相談所）との連携体制がある。 ホームページで情報を公開し透明性の確保に努めている 透明性の確保に関してはホームページで情報を開示し運営の透明性の確保に努めている。地域貢献に関しては、区の園長会や要保護児童対策地域協議会実務者会議、保護者連絡協議会などに参加し地域課題の情報を共有している。当園としては子育て支援イベントを企画・開催し地域の子育て世帯と気軽にコミュニケーションが取れる関係づくりを進め、随時、育児相談なども行っている。

	カテゴリー4
4	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
◉あり　○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
◉あり　○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
◉あり　○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
◉あり　○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
◉あり　○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
◉あり　○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
◉あり　○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリー4の講評

新型コロナ感染防止対策のガイドラインに基づいて対策を徹底している

本部からの新型コロナ感染防止対策のガイドライン「新しい生活様式に配慮した保育について」に基づいて、手洗い、消毒、検温、健康把握、職員のマスク着用など子ども、保護者、職員、関係者全員の健康管理を徹底している。また、園内の換気、消毒、玄関足ふきマットの次亜塩素酸水の塗布、玩具類の消毒、掃除・整理など感染対策の徹底を図っている。感染者や濃厚接触者が発生した場合は区と連携し迅速に対応できるようにしている。ガイドラインの新たな追加情報や変更点などはすぐに差し替え、職員間でも共有し確認し合っている。

事故防止対策は園内の整理・整頓に努め、事故の原因と対策を徹底している

事故防止対策は環境整備に力を入れ、置物など園内の整理・整頓に努め、事故防止チェックリストや危険個所のチェックを定期的に行い、事故報告書、ヒヤリハット報告書で発生の都度、原因と対策を考え共有し事故防止に努めている。安全対策委員を任命し、安全対策会議を行い、さらなるリスクマネジメントについて考え対策を徹底するようにしている。災害に関しては避難確保計画を作成と非常災害対策計画を作成し、研修に参加し、毎月避難訓練を実施している。大規模災害時のBCP計画は本部で作成し備えている。

運営ガイドラインに沿って情報の収集、利用、保管、破棄等情報管理を徹底している

情報管理は運営ガイドラインに沿って、情報の収集、利用、保管、破棄等情報管理をしている。園児用ファイルや運営に必要な書類を整理しファイルを作成し、必要な時に活用できるように鍵の場所、保管方法を把握している。パソコンは情報漏洩の無いように、園長のみが使えるパソコンとスタッフが使えるパソコンを区別している。メールでの資料添付は廃止し資料はクラウドに保管し見られるようにしている。職員は入職時に個人情報の取り扱いに関する誓約書を提出し、退職後も秘密厳守を約束している。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◉あり　○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◉あり　○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◉あり　○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
◉あり　○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当
◉あり　○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
◉あり　○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◉あり　○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◉あり　○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◉あり　○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◉あり　○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	新人は年3回の研修を受け、サポーターをつけ丁寧に育成している 人材確保はオンラインでの求人広告や募集ポスターを各所に貼り、職員の保育士紹介などで応募・園見学へ繋げ、常勤・パート・調理補助等の採用につなげている。新人は入社前研修を受け、企業理念、保育理念・方針・目標など運営法人の大切にしている考えを学び、その後年間で3回の新人社員研修及び専門性を高める為のフォローアップ研修、給食従業者研修を受け育成をしている。園全体で育てつつ先輩職員がサポーターになり、話しやすい・相談しやすい環境のもとで個別育成を図っている。サポーターには新人サポーター研修があり共に成長している。 研修体制が充実している、園内でのエピソード共有がさらに発展する様に期待したい 職員は「期待役割項目の共通と専門」の具体的な役割を基に自己評価し、年2回の期待役割面談等を通して個々の役割を確認し成長を確認して育成している。研修に力を入れ本部の階層別研修・専門研修、都のキャリアアップ研修に職員１人当たり年3～5回参加し、内部研修は嘔吐処理など各テーマで実施している。職員会議で「子ども主体の保育」を各クラス毎にエピソードを報告し共有している。優れた取り組みであり、さらに遊びと学びの記録を工夫しOJT体制の要として発展する様に期待したい。 働きやすく働き甲斐のある職場づくりに努めている 翌月の希望休を申し出シフトを作る際に取り込み、極力残業が少なくなるように業務負担の軽減に努めている。また、日々職員とコミュニケーションを取りストレスの確認を行い配慮している。保育の仕事の楽しさや喜びを感じられる職場環境作りに努め、「やらなければならない」ではなく「やりたい」仕事として捉え、職員一人ひとりがお互いの存在を肯定し、地域の子育てに携わることへの遣り甲斐を感じられるようにしている。マイナスな面に着目せず、それぞれの「よさ」に着目していける関係性を作り、普段から多様な「おしゃべり」を大切にしている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

（事業計画）
保育理念・方針・目標に基づいて中期計画を策定し事業計画を設定し「選ばれる園」「地域に必要とされる園」を目指している。今年度の目標は①保育所保育指針に基づき、職員一丸となって子どもの主体性・自主性を育む保育を実践する②内部・外部での研修を活かし職員の育成と定着を図る③保育の見える化を可能な限り実行し保護者との信頼関係を築く④子どもたちや保護者への必要な支援・配慮点を見つけ出し迅速に対応できるようにする⑤コロナ環境でもより安心・安全な保育計画を立てる等の重点目標を設定している。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

計画の実行はクラス会議、乳児・幼児会議、職員会議等で日・週・月・年で指導計画を振り返り、評価、次計画への反映等行っている。また、職員個人の育成計画は自己評価、期待役割面接シートにより年2回面談し進めている。さらに、指導計画や職員育成計画、見える化等計画と中期目標「選ばれる園」「地域に必要とされる園」と連動性を高め、課題を明確にして計画を具体化するとなお良いでしょう。また、全職員と目標を共有し、計画作成に当たって職員も参画して作成し、全職員総意の計画とするとなお良いでしょう。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

（職員育成）
職員は「期待役割項目の共通と専門」の具体的な役割を基に自己評価し、年2回の期待役割面談等を通して個々の役割を確認し成長を確認して育成している。研修に力を入れは本部の階層別研修・専門研修、都のキャリアアップ研修に職員１人当たり年3～5回参加し、内部研修は嘔吐処理など各テーマで実施している。職員会議で「子ども主体の保育」を各クラス毎にエピソードを報告し共有している。また、働きやすい職場づくりを目指し、希望休を配慮し、極力残業が少なくなるように業務負担の軽減に努めている。日々職員とコミュニケーションを取りストレスの確認を行い配慮している。保育の仕事の楽しさや喜びを感じられる職場環境作りに努め、「やらなければならない」ではなく「やりたい」仕事として捉え、職員一人ひとりがお互いの存在を肯定し、地域の子育てに携わることへの遣り甲斐を感じられるようにしている。マイナスな面に着目せず、それぞれの「よさ」に着目していける関係性を作り、普段から多様な「おしゃべり」を大切にしている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目２で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

研修体制が充実している、園内での保育実践の振り返りとして職員会議でエピソードの共有を始めたことは優れた取り組みである。さらに発展させてエピソードの遊びの夢中度のレベルを判定し、体験や学びを推察し、環境設定や関わりを評価して話し合うことが望ましい。保育実践の振り返りの話し合いの充実を中心にOJT育成体制の構築が望まれる。また、お互いに「良さ」に着目した信頼関係づくりなど働きやすい職場づくりのシステム化の工夫が必要と思われる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	◉あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	◉あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	◉あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当

サブカテゴリー1の講評

ホームページには、法人・保育園の特徴が分り易く分類、視覚化され掲載されている

ホームページやパンフレット等を中心に情報提供している。ホームページは法人と連動していて保育理念・保育方針・保育目標・取り組みが掲載され、「育ちのチカラを伸ばす」「あそびが学びに、学びがあそびに」「やってみたい」を大切にする保育等が示され、個別の発達支援や育児支援の内容も示されている。入園申し込み、園生活、一日の流れ、給食、行事、病気やケガ対応など主な内容、荷物の軽減サービスなどをタイムリーに伝えている。

園の情報を関係機関に提供し、連携を深めている

行政には運営状況や空き状況を定期的(月1回)に報告し、区の園長会等にて地域福祉ニーズの情報を収集し、地域の子育て支援や保育相談に応じている。療育機関とも定期的に電話連絡、訪問を受ける等、園での様子や療育を共有している。児童相談所とも随時に情報交換を行って、虐待や育児放棄などの早期発見・解決など地域貢献に努めている。地域支援の案内については園内掲示や広報・パンフレットの配布を行っている。

コロナ対策をとりながら見学者対応を丁寧に行っている

園見学の申し込みは電話やメールで受け付け、週2回の設定で主任や園長が対応し、コロナの感染状況により、玄関の所でするか、園内に入ってかなど、その都度に応じて案内している。パンフレットを基に園の取り組みや保育内容、一日の流れ、職員体制、行事、安全安心の取り組みなど詳しく説明している。法人のコンテンツ、絵本のプレゼントや貸し出し、もじかずランド、スポーツチャンバラ等の内容なども伝え、ブロックなど保育用品を活用した環境も紹介している。少人数で雑談を交えながら、気兼ねなく質問が出来るよう雰囲気に配慮し進めている。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
◉あり　○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◉あり　○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり　○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
◉あり　○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
◉あり　○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当

サブカテゴリー2の講評

入園説明は基本的ルールや重要事項など保護者の状況に応じて説明し、同意を得ている

重要事項説明書は面談前に保護者へ発送し、事前に読んでもらっている。説明会では園の目指す保育「あそびが学びに、学びがあそびに」「やってみたい」を大切にする保育等の取り組みや園の基本的ルール、1日の生活、必要な持ち物、行事、家庭との連携、保健、防災の安全管理、苦情要望、虐待防止、個人情報の取扱いについて等、説明し、不明点の質問を受け丁寧に答えることで保護者の同意を頂き、捺印を得ている。日本語理解が難しい場合は翻訳機の活用、外国語での説明に努めている。

入園開始後の子どもと保護者の不安の軽減に配慮している

新入園児は入園前に個別に面談し、家庭での食事、睡眠、排せつ、遊びなどの生活状況や健康状態、アレルギー、既往歴などを十分に把握した上で、子どもが無理なくスムーズに園生活が開始できるように配慮している。慣らし期間は2週間を目安に家庭の状況に合わせて、時間を少しずつ延ばすことで個別の配慮が出来るよう努めている。担任が保護者対応ができるよう、園長、主任が保育に入り、迎えの時間に時差をつける等の工夫をし、一人ひとりの様子を丁寧に伝え、また、家庭での様子を聞く等し、保護者と共に慣らし保育を進めている。

卒園、転園後の継続支援に心がけている

卒園、転園後も園に立ち寄り、気兼ねなく、雑談や相談に応じられるよう職員の安定した定着に努めている。子どもや保護者がいつ遊びに訪れても、馴染の保育者と再会でき、成長を喜び合い、相談や話し相手などにも対応していけるよう心がけている。また兄弟のいる子どもも多く、コロナ終息の折には、祭りや運動会などの園行事にもお誘いし一緒に楽しめるように予定している。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◉あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◉あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◉あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

指導計画は「主体性を育む保育」を考えながら作成している

保育理念に基づき全体計画を作成、子どもの興味や発達、保護者のニーズを勘案し、年、月、週日計画が各領域を考慮して立案されている。日々の打ち合わせは特に密に行い共有し連携に努めている。月、週案では振り返り時間を設け理念に基づいているか、保育活動に生かされているかなど確認している。ファイルに綴じ込み、誰でも見られるようにしているが各クラスの育ちの見通し確認のため、月案は全職員での対話を希望したい。本園の「子どもの主体性を大切にした保育」についてエピソードの発表のし合い計画に役立てている。

子どもひとりひとりに関する成長を経過記録として記載する仕組みがある

連絡帳アプリでは家と保育所での様子を保護者、保育所でそれぞれにやりとりして日々の変化が記録されている。月案や週案での評価反省や個別月案でも、個々の成長が記録されている。毎日の成長のエピソード等が個別日誌につづられ、これらを反映し一人ひとりの経過記録として、0、1歳児は毎月、2歳以上は3ヶ月毎に記録されている。記録は、園長、主任、で記録の視点を確認し、改善点を話合っている。

週日計画案は子どもの興味、遊びの継続を受け止め、柔軟に対応し進めている

週日計画は月の計画より落とし込まれ、日々の子どもの興味や遊びの状況、天気の状態によって柔軟に対応し変更する場合がある。遊びの継続や広がり、気付きや発見など遊びの充実に向って「今」を大事に進められている。子どもの興味や遊びに寄り添って、月のねらいを検証すると総合的な遊びの内容は、ねらいに添った視点が見えてくる。そこを対話、共有し振り返りたい。季節の体験や年齢で経験しておきたい学びや遊びは保育士が提案し丁寧に子どもと対話しながら進めている。こどもと保育士との日々の紡ぎ合いが主体的な子どもの姿を作り出している。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	〇非該当
◉あり　〇なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	〇非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	〇非該当
◉あり　〇なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	〇非該当
◉あり　〇なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	〇非該当

サブカテゴリー5の講評

子どものプライバシーを守るとともに、個人情報の保護の取り組みを行っている

入園時には、重要事項説明書をもとに、個人情報の取り扱いについて、丁寧に説明している。保護者からは、園内やブログへの写真掲示の許可を含めて、個人情報の取り扱いについて、理解を得たうえで同意書を受け取っている。また、子どものプライバシーに配慮し、子どものおむつ替えやトイレなどもついたてや目隠しをしている。着替えの時には外から見えないようにカーテンをしたり、幼児は個別となるように配慮している。水遊びの時は外から見えないように、日よけネットをつけるなど、子どものプライバシーを守る取り組みを行っている。

子どもの主体性を尊重する保育の実現に向けて、職員全員で取り組んでいる

「子ども主体の心と体の育ちの支援」という保育方針に基づき、家庭からの意向を入園時に確認している。子ども一人ひとりの家庭生活や生活習慣に最大限配慮できるように、職員で話し合って取り組んでいる。今年度からは、職員会議で「子ども主体の保育の自慢話をする」という取り組みを始めている。職員それぞれが思う「子ども主体の保育」について、共有しようとする試みである。「子ども主体の保育をしたい」という気持ちで行った保育に対して、職員同士が励まし賞賛しあうことで、一人ひとりの自信や自己肯定感の向上につなげている。

個人の尊重や虐待防止について学ぶとともに、支援しあえる体制がある

プライバシーの保護や個人の人権の尊重について、職員は運営ガイドラインを利用して、定期的に確認しあって学んでいる。虐待防止や育児困難家庭への対応の外部研修を受けると、園内では情報共有している。家庭での虐待の早期発見に向けては、子どもの表情や顔色を見逃さず、着替えやおむつ交換の際に身体の傷の有無などを確認して、必要に応じて自治体に連携をとる体制となっている。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	〇非該当
◉あり　〇なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	〇非該当
◉あり　〇なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	〇非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	〇非該当
◉あり　〇なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	〇非該当

サブカテゴリー6の講評

保育のあらゆる分野の基本事項や手順がガイドラインとして明示されている

服務規程（基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得）や子どもの人権（保育所保育指針、子どもの権利条約等）、虐待、保育の手引き、感染症・衛生管理、事故怪我対応、危機管理、苦情対応、子育て支援、個人情報保護などさまざまな分野について、運営ガイドラインが作成されている。基本事項や手順については、運営ガイドラインで明確になっており、職員がいつでも確認できるように事務所に設置されている。手順を理解するだけでなく、「なぜそうするのか」を職員が理解して行動できるように、取り組みを深めたいと考えている。

ガイドラインは研修で学び確認するとともに、業務フローの掲示で活用の工夫をしている

運営ガイドラインは、園内研修で全職員に周知されている。また、職員会議で読み合わせ確認テストを実施するなど、理解度の確認をしている。法・倫理の遵守に関しては、コンプライアンスコードを配布するとともに、e-ラーニングを受講している。マニュアルの活用としては、保育室の壁面などに業務の手順のフローをわかりやすく掲示している。SIDSチェックや病院受診の流れなどフローなどが掲示されており、「必要な場所で必要な時にすぐに」確認できるように備えている。

子どもの様子や環境の変化からガイドラインの見直しを行っている

法律の変更、ニーズの変化、環境の変化などに対応し、本部の委員会で運営ガイドラインの見直しを随時行っている。系列各園の委員が意見を伝えて、変更が必要な点を見直している。見直した運営ガイドラインに基づき、園独自の業務手順についても定期的に見直している。コロナ禍では、「新しい生活様式に配慮した保育について」を追加して、感染対策の徹底を図っている。感染者や濃厚接触者の発生にも備えている。マニュアルの追加情報や変更点は、職員ですぐに共有されている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4		
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当

評価項目1の講評

「あそびが学びに、学びがあそびに」「育ちのチカラ」を輝かせる保育を目指している

「育ちのチカラ」を輝かせる保育をめざしている。ひとりの子どもの「良さ」に着目し、変化していく子ども達の興味、関心、欲求を大切に受け止め、多種多様な環境作りに取り組み必要な玩具、絵本などの準備など、きっかけを作り、言葉掛けで発展させるなど、タイミング良く育つ力にしている。1歳児のチャレンジで「自分で～」「やってよ」と甘えとやりたいの葛藤が見えたときは、気持ちにより添い、意欲に繋がるような援助を心がけている。4歳児の「砂と石で遊ぶ」は対話して夢中で遊ぶ姿に『お助け隊』の存在になると見守りを提言している。

子ども同士が互いの違いを認め合い尊重する心が育つよう配慮している

日々、クラスを超えてパーテーションを外して交流する姿がある。散歩や活動には異年齢での触れ合いの機会を設けている。行事などでの発表の見せ合いもあり、大きい子は思いやりや優しさを学び、小さい子は憧れや意欲を引き出している。年長児は就学を前に各クラスにお手伝いに入ったり、幼児組は当番活動をして自信を高めている。運動会では仲間との達成感を味わい、行事の室内飾り付けや玄関のクラス写真など個々の違いに気付き楽しめる雰囲気になっている。ケンカは双方の気持ちに対応し納得いくような話し合いを重ね、代弁したり諭したりしている。

配慮を要する子どもの援助は、機関との連携で学び合い、支援に努めている

集団生活の中で生き生きと生活していけるよう加配措置による援助をしている。療育機関と連携をとり電話相談や訪問を受け、よりよい支援に努めている。区の巡回指導で、アドバイスを受けた環境設定を試みてもいる。保育士は自主的に学びを深める姿勢で対応し、悩み事も職員間で共有しその都度話合いを持っている。子どもの上手な関わり方に教えられることもある。保護者とは定期的に面談し、家庭の様子、成長や配慮点を共有している。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◉あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園時、子どもの状況確認をし、生活の連続性に配慮した保育を行っている

連絡帳アプリの導入でその日の朝に保護者による家庭での様子（睡眠時間、体温、食事、排泄、特記）が入力される。登園時はさらに視診をし口頭でも家での様子を丁寧に聞取っている。担任以外でも同様に聞取り、明確に担任へ引き継ぎを行っている。職員連絡ノートの活用で、早番と遅番間の申し送りはひとり一人の日々の状況を観察しいつ見てもその時々の様子がわかるよう記載し全員で共有している。利用者アンケートでは「子どもを迎え入れるときの明るい雰囲気や声掛け、本当に素晴らしい。適格なアドバイスには感謝している」など声が寄せられている。

基本的生活習慣は発達の状態に応じ子どもの気持ちに添いながら進めている

基本的生活習慣は発達の状態に応じ、子どもの気持ちに添いながら無理のない様進めている。家庭の状況や保護者の意向も確認し一緒に進めていけるよう伝えている。食事は食べ具合や飲み込み、離乳食からの移行など状況を観察、手づかみ食べも様子を見ながらスプーンへの移行を進めている。排泄は尿の間隔を観察し、ためることが出来る体になるのを確認、誘うようにしている。家での様子などと重ねながら進めている。衣服の着脱も自分での意思表示で進めている。模倣期の学びを利用し子ども同士関わりの中で「やりたい」意欲を高めるようにし進めている。

降園時にはその日の様子を丁寧に保護者に伝えている

保育所での様子、連絡事項は申し送りと共に全職員が共有している。事故怪我や重要な伝達事項は必ず担任が伝えるようにしている。0，1，2歳児は連絡帳アプリを使用しており、クラス毎の掲示やブログも利用して活動内容をお知らせしている。コロナ禍でも感染対策をとりながら保護者との連携に心がけている。利用者アンケートでは「毎日エピソードを話してくれるので充実しているのがわかる。日々の様子が聞けて安心する」と嬉しい意見が寄せられている。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◉あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
◉あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

散歩など様々な遊びと学びの体験で主体性を育んでいる

様々な公園に行き植物や昆虫に出会い、ふしぎを発見、季節の移りを感じ、好奇心、探求心、命の大切さを学んでいる。複合遊具があったり信号機を渡る経験、広場での集団遊びは社会性や丈夫な心と体を育んでいる。ありの飼育は図鑑で学び、むっくり熊さんは仲良く歌とルール、こおり鬼で体力づくりなど「今やりたい」の興味で意欲を高め、絵本やごっこ遊びに夢中になり、葉っぱの実験活動では試行錯誤を体験している。5歳児は縄跳び、ブロック遊び、皆で話し合う行事等で協働性や達成感を味わう等、様々な遊びと学びの体験を通して主体性を育んでいる。

思いを言葉にする嬉しさを感じながら楽しく生活し、人との繋がり方を学んでいる

子どもの気持ちに合わせて話しかけることで話をする楽しさ、伝え合う喜びを感じられるよう心がけている。表情や声のトーン、大きさを変えて話し、言葉遊びも楽しんでいる。0歳児の喃語「でででで」「あえ」に相づちを打ち、聞き入ると笑顔でどんどん話してくれる。2歳児の「あのね」も聞き入ると、「ぼくね」と次から次へと話が広がっていく。日々、「貸して」「どうぞ」「ありがとう」の関わりや「面白い」「美味しい」などの思いを共有している。遊びの広がりは友達との話合いで進められ、協力や思いやり、譲るなど、人との関わり方を学んでいる。

子ども達が自分から様々な表現を楽しめるようにしている

子どものやりたい気持ちに添い、粘土遊びやお絵かき、ダンス、歌、制作など様々な活動を行って楽しんでいる。保育者の姿をまねて歌ったり踊ったり、ブロックや板で家を作る姿も見られた。散歩で拾ったドングリや落ち葉で「お花やトンボ、芋虫など」を作り、絵本からの制作でとんぼのめがねも作っている。砂場でのトンネル作りは生き生きと言葉のやりとりをし、ごっこ遊びが始まると郵便屋さんやお店屋さん、お家ごっこなども出てきてその場に応じた表現で楽しんでいる。行事に併せた制作や室内飾りは保育所中を明るく楽しい雰囲気に盛り上げている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	〇非該当
◉あり　〇なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	〇非該当
◉あり　〇なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	〇非該当

評価項目4の講評

季節や日本の文化をみんなで楽しむ行事の取り組みがある

季節の行事は各クラスで制作に取り組み園内に掲示、雰囲気作りをしている。順番に担当を決め職員が中心で計画実施している。こどもの日や七夕、夏祭り、運動会、芋掘り、発表会、節分、雛祭りなど。紙芝居やお話で由来を聞き、制作をし興味を高めている。夏祭りは皆でお店やごっこ、誕生会は各クラスでパネルシアターなどでお祝いし、楽しく過ごしている。クリスマスには子どもの制作のサンタも展示、天井からのモビールや年長児の飾ったクリスマスツリーが保護者や保育園中を取り込み、ドキドキ･ワクワクの明るく楽しい雰囲気を作り出している。

運動会、クリスマス発表会は協力して成し遂げる喜びや達成感を味わっている

運動会は4歳児のパラバルーン、5歳児のソーラン節で真剣に取組み、形になってくると思わず「わあー」「ステキ」「ソーラン節をやろう」など思いを伝え、声を掛け合う様子が見られた。みんなで協力してやり切る体験で喜び達成感を味わっている。クリスマス発表会も絵本や日々の遊びから劇遊びを展開、「まあるい卵」や「トトロ」「こびとの靴や」など、話合い、譲り合い、ストーリー作りに取り組んでいる。装飾や楽器、うたが響き合い、日々の遊びでも台詞が往来しわくわく感が高まっている。この後は再現遊びで楽しみ充実感に満たされる事となる。

行事に当たり保護者の理解や協力が得られるよう工夫している

子ども主体の保育の実現のため理解と協力が得られるよう努めている。行事のスケジュールや内容を早めにお知らせして保護者が参加しやすいよう工夫している。運動会や発表会はコロナ禍を勘案し親子参加の実現に向けては3部に分けた構成で、一家族二人の参加と限定している。内容は主体性の発揮を充実させたもので「遊びからの学び」に理解を求め、協力をお願いしている。ドキュメンテーションの掲示やアプリで子ども達の様子を伝える事で見える化の工夫に取り組んでいる。行事後のアンケートや懇談会などで子ども理解に繋がる話合いの場も設けている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり　〇なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	〇非該当
◉あり　〇なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	〇非該当

評価項目5の講評

子どもがくつろげる環境で、甘えたい気持ちを職員が受け止めて延長保育が行われている

朝と16時以降は、0～2歳児、3～5歳児クラスごとに合同保育となる。18時からの延長保育は1歳児の部屋で行われている、2階保育室は人数によってパーテーションを開閉し、遊びによって区切るなど、安心して遊べるように環境設定をしている。部屋にはマットが敷いてあり、休みたい時には横になることもできる。18時になると、水分補給として麦茶や軽食が用意されている。職員は交代で担当するとともに、延長保育専門の職員も担当している。子どもの疲れた気持ちや甘えたい気持ちを受けとめて、信頼関係が築かれている。

異年齢の交流や遊びへの工夫で、子どもが延長保育を楽しみにできるようにしている

子どもが、延長保育の夕方の時間を特別に感じて、前向きに楽しみに思えるような工夫をしている。小さいおもちゃや、大量のブロック、数に限りがあるおもちゃなども、少人数の幼児のみになる延長保育の時間帯には提供されている。落ち着いて遊べるコーナーもあり、子どもは自分のしたい遊びを選んで過ごしている。職員は、異年齢の交流が安全に行われるように、子ども同士のトラブルやケガがないように全体から目を離さないようにしている。年下の子どもに優しく接することを伝えて、年下の子どもとの関わり方を学べるようにしている。

集団を離れた子どもが一人の時間を過ごせるように、職員が見守る体制がある

クラスを離れて一人になりたい子どもには、日中は事務所で過ごせるようにしたり、夕方に園庭で遊ぶのを見守るなど、個別の対応をしている。子どもの体調や気持ちに応じて柔軟に対応できるように、職員同士で支援する協力体制がある。また、今年度から、園では連絡帳アプリを導入しており、担任は、日中のクラスの様子や個別の内容を入力している。保護者は連絡帳アプリを見て子どもの迎えに来るため、伝達もれを防ぎながら確認の時間も短縮できる。園での生活と家庭での生活が、無理なくつながる仕組みがある。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◉あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◉あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当

評価項目6の講評

給食は旬の安全な食材を使用して、子どもが楽しく食事ができるように工夫している

子どもが楽しく食事をすることを第一として、嫌いなものを無理強いしたり、完食にこだわらないようにしている。食事のタイミングも、子どもの気持ちに寄り添うように柔軟に対応している。栄養士は各クラスを回り、喫食状況を確認して、切り方、量、味付け、盛り付けの工夫をしている。旬の食材を使用して、添加物を避けた安全な食材で薄味の給食が手作りされている。地産地消として、地域の野菜の小松菜を使う取り組みもある。コロナ禍で一緒に食事をとれないが、職員は近くで一人ひとりに個別に配慮して、楽しく食事となるようにしている。

さまざまな食育の機会を通して、子どもには食への興味や感謝の気持ちが育まれている

給食室はガラス張りで、子どもは給食が作られる様子を眺めることができ、食や作る人への興味や感謝の気持ちが育まれている。行事食は、誕生日会、七夕、お月見、ハロウィンなどがあり、食文化や旬の食材について、子どもに伝える機会となっている。三色食品群をフェルトで作成した玩具や、食材の産地を知らせる日本地図ボードを廊下に掲示し、子どもと保護者にも学びの機会を提供している。幼児クラスでは、さつまいもを栽培して収穫したり、自分で調理する体験があり、子どもが楽しく食の体験を重ねられるように、職員と栄養士が連携している。

アレルギー対応や離乳食など、子どもの成長や体調に合わせ保護者と情報共有している

保護者に向けては、給食だよりで食に関する情報を発信したり、毎日の給食展示やレシピ公開を行っている。入園時には、保護者にアレルギーの説明をして情報を共有し、医師の指示のもと除去食で対応するため、所定の書類を提出してもらっている。現在、園ではアレルギー児は在籍していないが、全職員でマニュアルを繰り返し読んで、緊急時に対応できるように備えている。また、離乳食は、食材進捗確認表を用いて個別に進めている。一人ひとりの成長や体調に合わせて対応できるように、保護者と情報共有をしながら、食の連携をしている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◉あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子ども自身で、けがや事故が予防できるように、職員が手本を見せたり話して伝えている

コロナ禍では、新型コロナ感染拡大予防を中心として、正しい手洗いの仕方やアルコール消毒のやり方について、手本を見せたり、イラストを使って伝えている。幼児クラスの子どもとは感染症について話し合い、予防の重要性を伝えている。室内や戸外の遊具や用具の使い方や、外出時には交通ルール、水遊びの遊び方や約束事について伝えるとともに、なぜルールがあるのかを知らせている。けがや事故につながる危険な行動について、子どもが理解して避けられるようにするとともに、体操や運動を日常的に行うことで、身体機能を高めるように努めている。

子どもの健康維持のために、園と家庭と嘱託医で連携するしくみがある

子どもの健康維持と成長の実現のために、「健康カード」を園と家庭が連携するための連絡帳として使用している。年2回の嘱託医による健康診断の結果や、年1回の歯科検診の結果、月1回の身体測定後に、保護者が確認して捺印すると、園で保管されている。感染症については、入園時に重要事項説明書で、出席停止期間も含めて、詳細に説明されている。園で感染症発生したときは、お知らせボードに掲示される。また、嘱託医とは、子どもの気になることや感染症やケガなどで心配な時には、園から連絡し、健康相談を受けるなど連携している。

乳幼児突然死症候群や事故予防など、保護者と情報共有して安全な保育に努めている

0，1，2歳児の保護者が登園前に子どもの体温や健康状態を連絡帳アプリに入力することで、家庭と園で子どもの情報を共有できる。乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防については、0歳児クラスで説明したり、掲示物で保護者と情報共有している。園では、午睡のときに0歳児は5分おき、1、2才児は10分おきに子どもの様子や呼吸確認をしている。また、安全な子どもの服や靴の選び方を重要事項説明書で説明したり、小さい髪留めや髪結いゴムの危険性について園だよりで情報提供するなど、家庭と連携して安心安全な保育に取り組んでいる。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者の意向を把握して、一人ひとりの事情に配慮した支援に取り組んでいる

保護者は、連絡帳アプリを利用して、自分の空き時間に園とのやりとりができる仕組みとなっている。いつでも記録が確認できたり、連絡の効率化が図られて時間の有効活用につながるなど、保護者に配慮されている。また、荷物が最小限になるように昼寝布団は園で用意する等、保護者の負担軽減を考慮している。保育時間については各家庭の事情に合わせており、残業による保育時間の延長にも随時対応している。年二回の個人面談や保護者アンケート、日々の会話を通じて保護者の意向を把握して、共通認識が得られるように取り組んでいる。

子どもの成長や保育の内容を共有できるように、情報発信を行っている

全クラスの保育内容をコメント、写真で玄関やクラスに掲示することで、日々の保育での小さな成長を細やかに伝えるように取り組んでおり、ドキュメンテーションも活用している。保護者は、他のクラスの子どもの姿や成長を知ることで、これからの成長を楽しみにしたり、これまでの成長を振り返る機会となっている。廊下には、各クラスの季節ごとの製作や、子どもの歩く距離や行く先を知ることができるお散歩マップも掲示されている。毎月のおたより配布や、保護者限定で閲覧できるブログなど、様々な取り組みで保護者に情報発信している。

園と保護者の信頼関係を深めるために、様々な取り組みで保護者に配慮している

職員は、毎日の送迎時の明るい声かけや、子育て以外にも話題を広げて、保護者との信頼関係が深まるコミュニケーションに取り組んでいる。行事の際には、保護者の参加しやすい日程の配慮や早めのお知らせ配布にも心がけている。保育参加や保育参観を実施したり、保護者会では話しやすい話題を提供して、保護者同士が交流できる機会を設けている。保護者代表の出席する運営委員会では、改善に向けての要望を聞き取っている。絵本の貸し出しについては、豊富な内容を揃えて行われており、家庭での保護者と子どもの交流の機会を支援している。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
◉あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

園外の外出の機会を利用して、子どもは社会性やマナーを身に着けている

園外へ散歩に出かける際には、職員が率先して出会う方にあいさつや会話をするのを見て、子どもはあいさつすることを学んでいる。目的に応じて、遊具のある公園や広場のある公園に出かけているが、地域の方や地域の子どもたちと譲り合って、遊びの場所を共有している。公共の場を使うことで、子どもは社会性やマナーを身に着けている。小学校の体育館で運動会を行ったり、災害時の避難場所の広場で、自治会の夏祭りに有志の親子が参加したり、消防署に協力を依頼して避難訓練を実施する機会もある。今後も子どもの体験が広げる取り組みに期待したい。

地域の子育て支援を担う存在となるため、相談を受けたりイベントを開催している

今年度から、計画から準備を進めて、園が地域の子育て家庭を支援するイベントを開催している。開催のお知らせを園外に掲示したり、園見学のときに案内するなどで、参加を呼びかけている。夏には園内で竹水鉄砲で遊び、秋には近隣の公園で青空絵本読み聞かせの会を実施した。冬には園で栽培したさつまいものツルを利用したクリスマスリース作りを行う予定である。園児や職員と子育て家庭が顔見知りの関係となることで、相談しやすい関係性を築いている。地域に開かれた園として、地域の子育て支援を担う存在となることを目指している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル①	ドキドキ、ワクワク、楽しい行事の取り組みは日頃の主体的遊びの集大成へと繋いでいる	
内容①	運動会演目、クリスマス発表会は、日々の子ども達の遊びからヒントを得て好きな曲やストーリー、ダンスを取入れるようにしている。戸外でのかけっこやリレー遊び、集団遊び、室内での絵本やリズム遊び、曲に乗せてのダンスなど、興味にあわせ0歳児から色々な活動を取入れ、心や体作りに力を入れている。ごっこ遊びの見立てや成りきりも想像性を発揮し自分の思うように言葉にして遊んでいる。一人ひとりの挑戦や発表も取入れ、みんなの中での自己肯定感を高めている。主体的遊びからの学びを子どもと一緒に組み立て楽しい行事へと繋いでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	子どもが給食が楽しみとなるように、環境を整えて美味しく安全な食事を提供している	
内容②	給食が楽しい時間となるように、職員が一人ひとりに配慮して関わるなど、環境を整えている。子どもの気持ちに寄り添い、完食にこだわらず、食べる時間にも柔軟に対応している。安心安全な旬の食材にもこだわり、子どもの食べやすい食材の切り方や味付けを工夫している。ガラス張りの給食室で、調理の様子を見ることができる環境で、食をつくる人や食材への興味や感謝が育まれている。コロナ禍では、ホットドッグ作りやサツマイモ栽培からのスィートポテト作りを感染対策をして実施している。食育活動が、日常の保育に取り入れて実施されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	日常の保育に必要なガイドラインを整備し、手順フローを掲示して活用している	
内容③	運営ガイドラインで、保育のあらゆる分野の基本事項や手順について明確になっている。ガイドラインは事務所に設置されいて、職員がいつでも確認できる。ガイドラインの活用の取り組みとして、手順のフローを保育室の壁などに、イラストを活用して掲示している。「必要な時に必要な場所ですぐに」確認できるとともに、日常的に目にすることで内容の理解が深まる効果もある。職員が手順を理解するだけでなく、「なぜそうするのかを理解して、行動できるようにしたい」と工夫して取り組んでいる。	

《事業所名：Gakkenほいくえん瑞江》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎日公園に出かけ集団遊びや自然の観察を楽しみ、室内ではごっこ遊びなど好きな遊びで夢中に遊び込み子どもの「育ちの力」を伸ばしている
	内容	「あそびが学びに、学びがあそびに」子どもの主体性を大切にした保育に取り組み、子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばす保育に努めている。近くの公園にほぼ毎日出かけ子どもの意見を聞いて、鬼ごっこや電車ごっこ、ドッジボールなど身体を動かし、ルールや協調性など様々なことを学び、また、どんぐりや落ち葉、アリなどなど自然を観察し好奇心や探求心など育んでいる。園内では家族ごっこやお店屋さんごっこなどで役割を話し合って遊びこみ、様々な制作やブロックの遊びで想像力を育み、次の日もその遊びが継続できるように工夫している。
2	タイトル	保護者に日々会話や連絡帳アプリ、お便りやブログ、写真など様々な手段で子どもの様子や成長の情報を発信・共有し信頼関係を築いている
	内容	保護者との毎日の会話や連絡帳アプリ、個人面談や保護者会など様々な機会に子どもの成長や子育て情報を共有し保護者との信頼関係を築いている。また、保護者の意向を把握して、それぞれの事情に配慮した支援を行うようにしている。子どもの成長や保育の内容について、日々の会話以外に連絡帳アプリを活用し保護者の都合の良い時間に連絡がとれ、また、写真の掲示やドキュメーション、お便りやブログなどきめ細かく情報提供している。また、保護者会、親子参加の行事、保育参加などで保育の取り組みを理解して頂き信頼関係を深めて頂いている。
3	タイトル	職員育成に力を入れ、求められる保育を共有し、日頃話し合う機会を増やし、職員負担軽減に努め、働きやすい職場づくりに努めている
	内容	職員は「期待役割項目の共通と専門」の具体的な役割を基に自己評価し、年2回の期待役割面談等を通して個々の役割を確認し成長を確認し育成している。研修に力を入れ本部の階層別研修・専門研修、都のキャリアアップ研修に職員１人当たり年３～５回積極的に参加し視野を広め、園内では「子ども主体の保育」を各クラス毎にエピソードを報告し求められる保育を共有している。また、日頃話し合う機会を増やし、園長・主任に相談し易く、職員の主体性「やりたい保育」を尊重し、職員の負担軽減を配慮して働きやすい職場づくりに努めている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「子ども主体の保育場面」を報告・共有している、さらに、遊びの夢中度・学びを評価し実践振り返りの一層の充実に繋がると良いでしょう
	内容	研修で「子ども主体の保育」を学び、園内で話し合い職員意見を大きな模造紙に書き出し、これから求められる保育を共有している。職員会議で各クラスの「子ども主体の保育場面」のエピソードを報告・共有し保育実践の充実を目指している。保育方針の自ら選び、自ら遊び、自ら学ぶ遊びの実践で子どもの自主性、興味・関心、意欲を育む取り組みである。今後さらに、日々の保育内容の振り返りを充実し、子どもたちの遊びの夢中度のレベル判定や、何を体験し育んでいるか推察し、環境設定と関わりを評価するなどで一層の充実に繋がると良いでしょう。
2	タイトル	喜びの感じられる楽しい仕事やお互いの良さに着目した信頼関係づくりを運営方針としているので、実践の仕組みが出来ると良いでしょう
	内容	働きやすい職場づくりを目指し、希望休を配慮し、日々の業務負担の軽減に努め、ストレスの確認を行い配慮している。保育の仕事の楽しさや喜びを感じられる様に「やらなければならない」ではなく「やりたい」仕事として捉え、職員一人ひとりがお互いの存在を肯定し、地域の子育てに携わることへの遣り甲斐を感じられるようにしている。マイナスな面に着目せず、それぞれの「よさ」に着目していける関係性を作り「おしゃべり」を大切にしている。これら方針を浸透するためにシステム化し「場」と「方法」が出来ると良いでしょう。
3	タイトル	中期計画の目標に基づいて各計画の課題と目標を明確にして、さらに職員の参画の基に作成するとなお良いでしょう
	内容	保育理念・方針・目標に基づいて中期計画を策定し「選ばれる園」「地域に必要とされる園」を目指している。今年度の計画として、事業計画、年間・月間指導計画、週案日案、職員研修育成計画、保育の見える化と保護者連携等計画されている。これらの計画と中期目標達成との連動性を高め、指導計画や職員育成計画、見える化等に各課題を明確にして計画を具体化するとなお良いでしょう。また、全職員と目標を共有し、計画作成に当たって職員も参画して作成し、全職員総意の計画とするとなお良いでしょう。